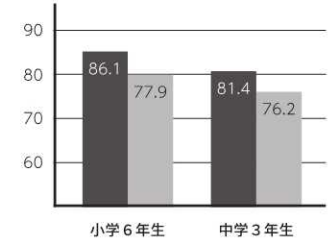
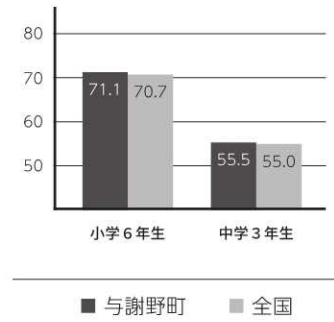


(表1) 学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。



(表2) 家で自分で計画を立てて勉強していますか。



自分で計画を立てて勉強をしている児童・生徒は、小学6年生で71・

2 「自分でよりよい」生活習慣「学習習慣」の確立を

をめざしています。また、学校生活や学級集団が安心して学べる環境であることが大切です。調査の「学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めているか」の問いでは、小・中学校とも肯定的な回答が全国平均を上回りました(表1参照)。

学級集団の状況を把握するために教育委員会独自で実施している「学級満足度調査」の分析や教員の児童生徒への日常的な関わりをもとに、学力の土台である良好な学級づくりを

育との連携を大事に進めています。

3 保育所・こども園・小中連携の充実

1%、中学3年生で55.5%です(表2参照)。家庭学習の時間は、30分未満が小学6年生で18.8%、中学3年生で34.6%という状況です(表3参照)。家庭学習では宿題だけでなく、自分のやりたいことを見つけ、自主的に学習する習慣を身に付けていくことが、将来に向けての大きな力となります。子どもたちがよりよい生活や学習習慣を身に付けられるよう、学校・家庭・地域で一層連携・協力する必要があります。

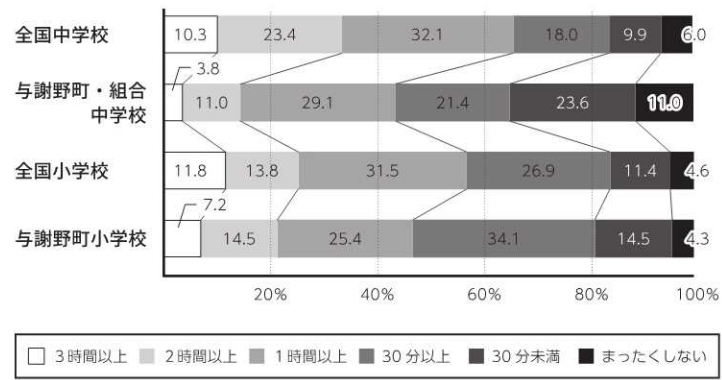
幼児期の生活習慣や好奇心は、学ぶ力につながります。保育所・こども園・小中学校の教員の合同研修会などを行い、学びの芽を育む幼児教育との連携を大事に進めています。

4 ICTの効果的な活用

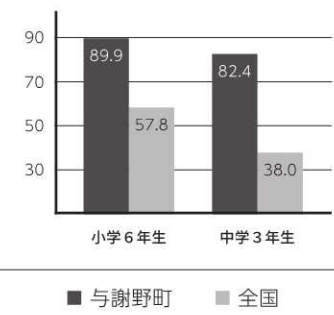
児童・生徒一人一台のタブレットを使った学習が進んできています。友だちと考えを交流したり、わからないことをすぐに調べたりと、ルールや情報モラルの指導とともに、タブレットの効果的な活用も広がって

また、子どもたちの学習状況や指導方法などを互いに交流し、学びの連続性を重視した授業改善に取り組むなど、小中連携を進めています。

(表3) 小・中学校の家庭学習状況



(表4) 今住んでいる地域の行事に参加していますか。



今後とも学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを育み、よりよい教育環境をつくっていくことが望まれます。将来、与謝野町・組合の子どもたちが自立し、健康で幸せに生きていくために、学力向上に向けた取り組みを推進していきます。

「地域の行事に参加しているか」という問いに対しては、小・中学校とも全国平均を上回る結果となっています(表4参照)。このことから、地域が子どもたちとつながり、子どもたちも地域とのつながりを大切にしていることがわかります。

5 地域のつながりの中での育ち合いを大切に

きました。さらに一人ひとりの意欲を高める学びに生かしていきます。



全国学力・学習状況調査を踏まえて

令和5年度全国学力・学習状況調査結果(正答率)

(単位: %)

| 【小学校】 | 国語 | 算数 |
|-------|------|------|
| 全国 | 67.2 | 62.5 |
| 与謝野町 | 65.0 | 59.0 |

| 【中学校】 | 国語 | 数学 | 英語 |
|---------|------|------|------|
| 全国 | 69.8 | 51.0 | 45.6 |
| 与謝野町・組合 | 70.4 | 46.6 | 38.8 |

※ 与謝野町・組合…加悦中学校、江陽中学校、与謝野町宮津市中学校組合立橋立中学校の3校

令和5年4月、町内6小学校と3中学校を対象に「全国学力・学習状況調査(以下、「調査」)を実施しました。小学校は国語・算数の2教科、中学校は国語・数学・英語の3教科で、中学校の英語は4年ぶりの調査となりました。

教育委員会から調査の結果をお知らせすることで、地域の皆さまに与

● 調査結果から

小学校は、国語・算数とも全国平均正答率を下回る結果となりました。中学校は、国語が全国平均正答率を上回りましたが、数学と英語は、下回る結果となりました。

課題としては、筋道を立てて考えたり、根拠を挙げて自分の言葉で説明する力に加え、各教科の基礎となる「読むこと」「書くこと」の力をつけていくことも必要です。

自分の生活と結び付けて課題や目標を設定し、継続して粘り強く考える力も求められています。

謝野町・組合の小中学校の子どもたちの現状を理解していただき、学校・家庭・地域が一体となって、子どもたちの健全な育成を図っていききたいと考えています。今後ともご理解とご協力をお願いします。

☎ 学校教育課 43・9025

● これからの教育を進めていくために

1 3つの資質能力を育む授業づくりと、居場所のある学級づくりによる一人ひとりの力の育成

これからの時代の変化を見据え、子どもたちには自ら課題を見つけ、実行する「生きる力」が求められています。学習指導要領では生きる力を育むために、次の3つの資質・能力を育てていくこととしています。

- 実際の社会生活で生きて働く知識・技能
- 未知の状況に対応できる思考力・判断力・表現力
- 学んだことを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力や人間性

これらの力を付けていくため、各校では、調査結果などの分析を踏まえ、自校の課題や改善点を明らかにし、公開授業や研修会などを通して、一人ひとりの課題などに応じた学習指導ができるよう努めています。そして、児童・生徒の学習意欲を大切にし、教えて考えさせる授業づくり